

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北陸)		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品発売に伴って販売数が大幅に増加した。また、同時購入やプラス提案のチャンスが増えたことにより全体的な販売増につながった。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・競合店が8月末に閉店した影響はあるが、来客数は増えている。また、品数を豊富にしたことで客単価が若干上がっており、両方の理由で売上は上がっている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・4Kテレビの認知度がオリンピック以降に高くなり、テレビの販売単価は上がってきている。また、寒冷地向けエアコンによって冬にエアコン暖房を使う傾向が強くなり、エアコンの販売台数、単価が上がっている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・昨年の近隣競合店のオープンから1年が経過し、その反動によって来客数が昨年と比較して増えている。気温低下の遅れから客単価は伸び悩むが、来客数の増加により売上は昨年と比較して増加した。また、来客数の増加要因としてはシネマの好調があげられる。
		通信会社（店舗統括）	販売量の動き	・新製品の販売量が昨年以下と予想していたが、思ったより好調である。
		商店街（代表者）	それ以外	・来客数が増えてきているが、客単価は低くなっており売上増加に結び付かない。商店街にはブティックが比較的多いが、差別化できる商品には需要がみられず、東南アジア製の安い商品への需要が伸びている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・寒暖差が少し出てきたため秋物への関心がみられるが、例年の動きとあまり変化はない。
		一般小売店[事務用品]（店員）	販売量の動き	・今月は売上、利益ともに計画未達であり、継続的なキャンペーンには大きな効果がみられなかった。
		一般小売店[鮮魚]（役員）	販売量の動き	・北陸新幹線開業から1年が経過した今年の春先は、さすがに1年たつとこんなものかと、やや観光客数は落ち着いていたが、8～9月は少し戻ってきた。しかし、やはり消費金額は減っている。また、相次ぐ台風や時化のため魚の単価が高騰して粗利には悪影響となった。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・台風の影響により野菜の高騰が続いている。客の購買行動がよりシビアになっている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・競争店の改装開店や新店舗を含めて、価格競争が止まらない。しかし、一部相場や気温によって左右された品目があるものの、全体としての販売量は今までの水準を保っている。
		スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・旧盆セール以降は、来客数が回復しない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・天候不順の影響が若干みられるが、例年と比べて大きく変わったということはない。良くなってもいけないし悪くもなっていないと判断している。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・売上で前年割れする店舗が増えている。特にショッピングセンター内の店舗の落ち込みが激しい。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・9月に新型車を発売したが、新型車以外の受注が良くない。全体的な販売が増えない状況が続いており、市場状況はまだ良くない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が発売されたことでかなり期待していたが、なかなか新車販売に結びついていない。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・9月の中間期に向けて新車販売台数は前年を超えてきている。年末に向けて新型車の取扱が増えるので業績は前年を上回る見込みである。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・9月の販売量は前年同月比105%の見込みである。28年6月の販売量は前年同月比102%であったので、3ヶ月前との比較でほぼ横ばいである。
		自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・半期決算セールを行っているが、例年以上に価格に敏感である。安くても必要がない商品購入を控えている。車検需要期で数量的には前年を越えているが、付帯メンテナンスを極力避ける傾向であり、出費をできるだけ抑えたいとの声が多い。
		その他専門店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・悪い状態がずっと続いている。良くなる兆しが全く見えない。

その他小売 [ショッピング センター]	販売量の動き	・食料品は何とか前年並みを維持できているが、衣料や住まいの品が悪い。客は必要以上には買わない様子で、価格をよく見て買っている。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・9月は、前年比で昨年4連休に相当する分だけ落ちている。
観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上88%、宿泊人数88%、宿泊単価98%となっている。宿泊人数は新幹線開業2年目の影響による減少に加え、宿泊単価の高い部屋の予約が減少したことでマイナスとなっている。
都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・宿泊部門においては、北陸新幹線開業以降は順調に推移してきたが、やや鈍ってきている。宴会部門では、リオオリンピック関係の祝勝会の利用により全体では前年と変わらない。
通信会社（役員）	販売量の動き	・リオオリンピックが終了してテレビ視聴への関心が低下したこともあり、ケーブルテレビ契約の獲得数が鈍化傾向にある。
競輪場（職員）	販売量の動き	・売上が伸びてこない。
その他レジャー施設（総支配人）	来客数の動き	・オリンピック、パラリンピックの影響を少しは期待していたが、刺激をされてスポーツに取り組みたいと思う人達がいないように感じた。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・金利の低下や地価の動向など、住宅取得のための環境は今が一番いい時なので客は動いているが、ローコスト住宅の志向が強く高額商品へのニーズは低い。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客の様子から注文住宅や不動産の動きはあまり感じられない。
商店街（代表者）	お客様の様子	・景気回復と言われるが、全く実感はない。接客していると、むしろ後退感の方が強い。時節柄、秋物が主流となってきているが、割引がないなら買わないと敬遠する客が多くみられる。
一般小売店[精肉]（店長）	来客数の動き	・新幹線開業効果は前年に比べて薄くなり、徐々に来客数が減ってきている。
一般小売店[書籍]（従業員）	来客数の動き	・来客数が前年同月比で10%以上のダウンで、客の購買意欲は感じられない。
百貨店（売場主任）	販売量の動き	・前年9月は、プレミアム付商品券やシルバーウィーク、気温の低下といった特殊要因があり好調に推移した。本年9月は特に好調となる要因もなく、シルバーウィークは飛び石連休に終わり、前年の反動から厳しい状況が続いている。特にファッション関連は、シーズンの先取り層が激減し、秋物の売行きは鈍く苦戦している。
百貨店（営業担当）	来客数の動き	・前年はプレミアム付商品券で買物する客が多かったため、前年比で売上は大きく落ちている。プレミアム付商品券の影響を差し引いても、今月は天候不順、台風の影響で来客数が少なく、客単価が低い。特にファッション商材の動きが良くない。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・百貨店にとって、9月の秋のファッションの始まりであるトレンド商材や新しい商材の売行きを左右するのは天候である。今年は残暑があまり厳しくない。どちらかという気温は低めに推移している。9月であるにもかかわらず、ファッション衣料関係のものは動きが鈍く、客があまり買わない。食や暮らしについても、秋の味覚品や室内の模様替えの需要は、今一つ売上が芳しくない。すべて前年を下回る厳しい状態が続いている。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。競合店も同様であるらしく、チラシの特売価格が下がってきている。
衣料品専門店（経営者）	それ以外	・消費が相変わらず弱い。ファーストフードの一部で、値下げが始まった。不透明な景気循環の中で、消費者の価格意識がうかがえる業界の1つである。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・個人消費が低迷しており、特に衣料品は顕著に表れている。より安いものを必要な時に必要なだけ買うという、デフレに逆戻りしている。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・連休に隣の駅周辺や繁華街を訪ねた。地元の百倍ほどの混雑ぶりは想像を上回った。これほどの混雑ぶりだと、お金は動きは百倍以上の差がつくと思われる。どうしたら地元で消費を増やせるのか考えていかなければならない。

	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・団体旅行者による昼食の売上が例年を上回り、昼全体で前年比115%の売上と好調である。夜の集客は前年比75%しかない状況で、全体の売上では昨年より10%近くダウンしている。今月は、今年最も悪い結果となっている。10名以上の夜の宴席が最も減っている。
	一般レストラン (統括)	販売量の動き	・客のデフレマインドが影響しているのか、店内の飲食単価が下がってきた。来客数は変わらないが、売上が少し下がっている傾向がみられる。単価の高い飲食店では8月より来客数の減少がみられる。
	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊数について、昨年の北陸新幹線開業効果の反動を明らかに感じるようになった。
	旅行代理店(所長)	販売量の動き	・受注件数、受注額が前年と比較して低調である。シルバ・ウィークが本年は飛び石となり、国内、海外ともにロングボーション旅行が減少している。
	タクシー運転手	販売量の動き	・夜間の人出が非常に少ない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・前年からみると観光客は減っている。今月は台風の影響によって天候が悪く、週末はあまり良くなかった。
	通信会社(職員)	来客数の動き	・時期的に社外イベントへのブース出店の機会が多いが、来客数は期待ほどではなく、新商品をメインにした販促への反応もシビアである。また、イベント自体が集客に苦戦している状況にある。
	通信会社(役員)	販売量の動き	・前月よりは問い合わせ数が増えて契約数は若干持ち直したが、3か月前と比較して契約数はまだ少なく、上向きになっていない。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・7月まで順調だった来客数が、8～9月では前年割れとなっている。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・来客数は多いものの、契約金額、契約件数ともに例年を下回っている。問い合わせは多いが、割安な物件の要望が強く建物契約の状況は良くなかった。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・心配していた情報量は下げ止まった感があり、来月に今後の動向が見えてくる。消費税増税の再延期が与えた影響は会社ごとに異なるが、販売価格帯や階層別に差が出始めてきた。
	コンビニ(店長)	販売量の動き	・同一チェーンの経営者間で、9月の売上が際立って悪いと話をしている。例年の7～9月は年間を通して最も売上の多い時期だが、8月までと違い9月の売上は激減中である。例年では8月が一番良く、次いで7月、9月となるが、今年は7月が一番景気が良く、8月、9月になるにつれ、売上が減少している。7月対比では1割以上、販売量が減っている。
	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・7月までは好調な推移を続けていたものの、8月のオリンピックや高校野球、お盆などで落ち込んでおり、それ以降の売上回復が全くみられない。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・9月中旬までは何とかなっていたが、後半はぱったりという状況である。連休で営業日が減ったことや、市議会議員による政務活動費の不正受給問題がマイナス影響となっている。
	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・北陸新幹線開業2年目の反動で、国内の団体客、個人客が減少した。海外からの客も円高の影響で減少傾向にある。また、前年は大型の連休があったが、今年は大型連休がないため悪くなっている。
企業 動向 関連 (北陸)	-	-	-
	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・地方自治体でようやく工事が発注され始めた。
	税理士(所長)	取引先の様子	・今の景気ははっきりしない、まだら模様を感じる。顧客によって良いところや悪いところがあり、同じ業種でも違いがある。顧客の様子をみると、売上高や利益は2～3か月前よりは少し良くなっているが、まだ先行きがはっきりしない状態である。
	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・業界全体にみて、販売量が下がっている。特売を実施しても数量が伸び悩んでいる。
	繊維工業(経営者)	取引先の様子	・国内の婦人衣料関係は全体的に悪い。特に影響しているのは、百貨店の売上がかなりダウンしていることで、為替が非常に円高であることが原因となっている。非衣料関係については、非常に順調に売上が上がってきている。
	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・現在、売上は横ばい状況である。

	一般機械器具製造業（経理担当）	それ以外	・輸出企業においては、今年に入ってからの為替変動が大きな関心事となるが、ここ数か月は大きな変動もなく推移している。そういった観点などを背景に、受注状況には大きな変動はない。
	精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・営業からの報告として、特に百貨店などのいわゆる高価格帯市場が縮小しているとの客先の状況である。また、他社商品にベタ付けするための、ノベルティ用ケースの出荷数がここ2～3か月は前年割れしているようだ。
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・個人消費がずっと上向かず、物の動きが活発でない状態が続いている。
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・売上高は変わらないが、軽油価格が安定してるので収益は良い結果となっている。OPEC減産が、運送会社にとってどのような影響を及ぼすかは心配である。
	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・企業の資金需要がおう盛ではない上、金利の状況から収益性が低い状況が続いている。取引先では、小売業の売上が伸び悩んでおり、輸出企業の輸出量は増加していない。
	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の建設関係業者の受注が幾分か活発である。公共工事の保証の依頼が増加している。
	不動産業（経営者）	競争相手の様子	・少し動きが出ているという同業者の話が多かった。
	司法書士	取引先の様子	・危険家屋の取り壊しと底地の処分の案件が複数ある。これまで動きがなかった物件の処分は進んでいるが、金額的には少額な案件である。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・米国向け輸出品の一部で在庫調整に伴う受注減があり、前年同期比で大幅減となっている。
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・8月は夏季休暇のために受注が全体で落ちてくるが、9月に入っても上がってこない。
	建設業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・工事発注は多少増加しているものの、一部では依然として受注価格競争がし烈であり、受注環境は厳しさが続いている。
	x	-	-
雇用 関連			
(北陸)	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・1回の発行で、求人数が平均で30件は伸びている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・昨年9月の求人広告は、前年比で7割弱と大きく落としており、それ以降の求人広告の不調の始まりとなった。今年9月の求人広告は、一昨年レベルに回復した。求人広告のリアクションの薄さによって出稿を押しえられてきた状況が、それでも求人出稿に向かうトレンドに変わり始めている。全体のボリューム感を除けば、求人種目に関しては一昨年、昨年とあまり変化はない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比7.0%超の増加である。新規求職者数は、前年同月比5.0%超の減少となっている。前年同月を上回る有効求人倍率となっている。
	人材派遣会社（役員）	雇用形態の様子	・一時的な欠員が要因の需要は増えている。ただし、長期的な雇用の件数は少ない。
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・派遣業務の依頼は増えているが、新規登録をする人が少なくなってきた。
	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・9月の求人広告売上は、前年同月比8割弱である。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・一部の事業所では良くなっているとの声も聞かれるが、仕事は増えてきているものの利益が出ないという事業所の声もあり、全体として変わらない。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材不足と言いながらも、新しい求人数が増加していない。前年の60～70%レベルにある。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・平成29年3月卒業予定者に対する求票の出は少なくなってきたが、追加募集や2次募集は数件来ている。
	x	-	-